

日本産業衛生学会

関東地方会ニュース

(題字 高田 昂筆)

発行所/日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒105-8461東京都港区西新橋3-25-8

東京慈恵会医科大学環境保健医学講座内・TEL(03)3433-1111 内 2266・FAX(03)5472-7526・発行責任者/清水 英佑



河口湖より早春の富士山を望む(写真提供 前田和子)

新世紀に新しい風を

庄司 榮徳 (千葉産業保健推進センター顧問)



新しい世紀を迎え、叡智に満ちた時代になることを心から祈っていますが、私たち地方会会員はこの世紀に何を贈ることができるのでしょうか。

関東地方会は、昨年の総会で「産業医部会」の立ち上げと「産業看護研究会」から「産業看護部会」への名称変更を決めましたが、私はこの二つの部会の活動に大きな期待を寄せています。

最初の事業として企画された研修会も大切ですが、私は、もう一つの重要問題『小規模事業場労働者の健康確保』に繋がる実践的な部会活動を展開して欲しいと思っています。

労働者 50 人未満の小規模事業場は、事業場数の約 97%、労働者数は約 3 千万人に及びますが、産業保健

は遅れています。この人々に良質の産業保健サービスを提供する当面の方策は、地域医療に従事している医師が全員産業医の資格を持ち、診療と一線を画しながら地域ごとに産業保健活動を展開することが軸になると思います。

そこで期待されるのが両部会、特に産業医部会の支援活動です。

まず県単位の活動として、産業保健推進センターを活動拠点とし、県医師会及び大学・研究機関等と連携をとり、三者一体となつての支援活動を考える必要がありますし、さらに細かな地区単位の活動としては、地域産業保健センターを活動拠点に、地区医師会と医療機関、地方会両部会の会員が三者一体となつての支援活動が必要だと考えているのです。

新世紀に新しい風を贈ろうではありませんか。

第210回例会および 第44回見学会報告

大久保靖司 (千葉大医)

平成12年7月14日、15日の両日にかけて、日本産業衛生学会関東地方会第210回例会および第44回見学会(代表幹事:野上寛一氏)が、ホテルポートプラザちば(千葉市)において開催された。参加者は見学会107名、例会は158名であった。

プログラムでは、見学会(14日12:45~15:30)が千葉市北清掃工場、放射線医学総合研究所、川崎製鉄(株)千葉製鉄所の3ヶ所に分かれて行われた。

見学会終了後の教育講演「疫学研究の実践」では島正之氏(千葉大)が、大気汚染に関する自らの疫学研究において健康影響を明らかにしていく過程を紹介しており、産業保健現場における調査研究の進め方において大いに参考になるものであった。

翌15日の特別講演「分子生物学と産業医学—今後の展望—」では松島綱治氏(東大医)が、ゲノム研究の最先端のトピックを交えて、今後の産業保健現場への応用について紹介した。質疑応答では、産業保健現場での遺伝子診断などの倫理課題について活発な討議があり、この分野の関心の高さが窺われた。

引き続き、シンポジウム「産業保健と環境管理—有害物を中心として—」が開催された。研究者の立場から大前和幸氏(慶大医)は、最近の新たな化学物質中毒事例を挙げ、環境管理における管理体制や研究者の役割とあり方について述べた。労災病院の立場から坂井公氏(東京労災産業中毒セ)は、産業中毒センターの活動と機能について紹介し、産業保健現場、労災病院及びセンター活動の連携について述べた。企業管理者の立場からは、田口喜代継氏(川崎製鉄千葉)が実践的ノウハウを含めて事業場における有害物管理の方法とそのシステムを紹介した。産業保健スタッフの立場からは、木内夏生氏(鬼怒川ゴム工業)が有機溶剤使用者における抑うつ度に関する研究を紹介し、現在の有害物管理の課題を健康管理の立場より述べた。

今回の例会は一貫して研究機関および専門機関と産業保健現場との連携にポイントを置いており、いずれの立場の会員においても有意義な例会であった。



第211回例会報告

市川正明 (中災防)

20世紀の最後となる関東地方会第211回例会は、平成12年12月9日、女性と仕事の未来館(港区)において開催された。今回の例会は、日本医師会認定産業医研修及び産業看護職継続教育研修に認定されたこともあり、参加者は総数207名(会員183名、非会員24名)を数え、女性の参加者が多くみられた。

プログラムは、特別講演2題、シンポジウム1題の構成であった。開会にあたり、清水英佑会長の挨拶があり、次いで、労働省の荒川輝雄化学物質調査課長が「化学物質管理の現状と課題」と題して、化学物質管理に係る行政の動きを中心に講演を行った。引き続き、中災防労働衛生調査分析センターの櫻井治彦所長は「曝露限界値・環境基準値等の設定方法と意義」と題して、人の生活圏や生態系に放出される化学物質を適切に管理するに当たっての考え方、手法についての講演を行った。

最後に、働く女性の健康の保持増進に焦点を当てて「働く女性の仕事と健康」をテーマとしたシンポジウムが行われた。東京女子医科大学香川順教授の座長のもとに、4人のシンポジストから報告と提言がなされた。

*行政の立場から; 足利聖治氏

(労働省女性労働課長)

*産業医の立場から; 山口いづみ氏

(東京産業保健推進センター相談員)

*企業内看護職の立場から; 正木あい子氏

(伊勢丹健康管理センター保健婦)

*研究者の立場から; 野原理子氏

(東京女子医科大学衛生公衆衛生学教室)

参加者からも意見や要望等が活発に出され、今後の継続的な検討が期待された。



第48回日本職業・災害医学会 学術大会報告

横山和仁(東大医)

平成12年11月1,2日に第48回日本職業・災害医学学会学術大会(会長 荒記俊一東京大学教授/労働省産業医学総合研究所長)は東京大学(文京区)において開催された。今回の大会は勤労者医療(臨床医学)と産業保健活動(予防医学)の相互交流と統合を図ることをメインテーマとし、会長講演、招待講演(P.J. Landrigan米国マウント・サイナイ医科大学主任教授)、基調講演(小泉明日本医師会副会長、若林之矩労働福祉事業団理事長)、特別講演(3題)、教育講演(10題)、メインシンポジウム、シンポジウム(3題)、一般講演(175題)等が行われた。日本産業衛生学会と本学会とは相互交流が進んでおり、今回は藤木幸雄理事長、竹内康浩副理事長など産衛学会員の参加もあった。

学術大会の詳細は近日刊行される産業医学ジャーナルに掲載される予定である。抄録集ご希望の方には、実費で頒布する。

(大会事務局は東京大学公衆衛生学教室、FAX 03-3816-4751)



第40回日本労働衛生工学会・第21回作業 環境測定研究発表会の合同学会報告

村上正孝(茨城産保推セ)

日本作業環境測定協会の黒羽徹氏と私が実行委員長となり水戸市のサンシャイン常陽で、11月8日から10日に開催し、500名もの参加者があった。

記念事業として、奥重治氏には「労働衛生工学会発足からこれまでの活動」、小出勲夫氏には「働きやすさ

の追求」なる特別講演をいただき、本学会関係者により指針が示された。さらに、シンポジウム「職場におけるリスクアセスメントと作業環境管理」では高田勲・中明賢二氏の司会で、桜井治彦氏の概論、古谷義夫氏の化学物質によるリスク評価情報そして職場での取組みとして四社、吉良一樹氏(三菱化学)、富田雅行氏(ニチアス)、二宮良延氏(ソニー)、島村紘二氏(松下電器)の発表があり、とくに各社が独自の仕様でたくましくシステムを構築中であることに感銘した。77題の一般演題、作業環境測定機器40年の歩みと題したメーカーの展示も実り多きものであった。

中小企業衛生問題研究会 第34回全国集会報告

伊藤昭好(労研)

平成13年1月27日(土)、横浜市のかながわ県民センターにおいて、標記の研究集会在「21世紀の中小企業労働衛生活性化戦略」をメインテーマとし、実行世話人の酒井一博労働科学研究所長のもと開催された。当日は前夜からの記録的な大雪にも係わらず56名の参加を得た。9題の一般演題発表をめぐって活発な討議が行われたのははじめ、メインテーマについてシンポジウムが企画され、「地域拠点ネットワークの構築と有効な中小企業支援のありかた」佐藤学氏(徳島産保推セ)、「多様な雇用形態を活かす中小企業の将来像と安全衛生」森川和男氏(秋葉ダイカスト工業所)、「技術・技能伝承からみた中小企業のこれからの安全管理」中村肇氏(三菱総研)、「自主対応参加型安全衛生マネジメントシステム導入のための支援方策」(筆者)の4氏による講演と、今後取るべき方策と課題について有意義な全体討議が行われた。



理事会報告

清水英佑 (慈恵医大)

平成12年度第3回理事会報告(平成13年1月13日開催)

1. 定款改定について:厚生労働省との折衝は難航している。問題点は、代議員制度により総会を代議員だけで行うことに疑義を持っているためである。そのため、平成13年度に行う選挙はこれまでと同じ方法で行わざるを得ないと思われる。また、法人格の必要性について理事長、総務で検討することにした。
2. 第76回日本産業衛生学会は中国地方会で、平成15年4月下旬に山口市で芳原理事が担当する。
3. 第12回産業医・産業看護全国協議会(小山和作企画運営委員長)は熊本県で開催の予定。
4. 平成12年度事業報告、収支決算見込み報告、平成13年度事業計画および予算の各案が了承された。
5. 専門医制度委員会委員が交代し、岩田、大久保、大原、浜口、圓藤、大前、東の各委員が就任した。
6. 産業衛生学雑誌の大前編集委員長より、2002年11月に台北で開催されるアジア労働衛生会議(ACOH)で発表された演題中、selected papersをJOHに掲載したいとの申し込みがあり、委員会の提案を踏まえて理事会で検討の結果、JOHの目的に適合し実績になる、国際貢献に有意義である、対外的アピールとなるとの理由から受け入れることが適当である。但し、内容的に未定の部分があり、論文の質の保証、経済的負担方法等について今後詰めて検討・交渉してもらおうことで承認した。
7. 名誉会員に加美山茂利先生を総会に提案する。
8. 許容濃度提言理由書集増補版の印税を中災防から学会に支払う。
9. 第74回日本産業衛生学会(大原企画運営委員長)の開催内容について報告があった。
10. 労働衛生関連法制度検討委員会を発展的に継承することにした。
11. 学会表彰制度の規約等を機関誌に掲載し来年度より運用する。
12. 現在、指導医299人、専門医72人。専門医試験日は8月25、26日に行う。
13. 奨励賞受賞者に田中茂先生(北里大医療衛生)が選定された。
14. 個人情報保護法に対して学会として要望書を提出する。

幹事会報告

鈴木勇司 (慈恵医大)

平成12年7月15日ホテルポートプラザちばおよび12月9日中災防において開催。

1. 細貝浩章(NTT)の幹事就任が承認された。
2. 平成12年度第1回拡大幹事会および平成12年度第2回幹事会議事録が承認された。
3. 第209回例会について大前当番幹事から報告があった。
4. 第210回一泊例会・第44回見学会について野上当番幹事(代表)から、第211回例会について市川当番幹事より説明があった(内容は第210回例会報告、第211回例会報告参照)。
5. 第212回例会(新津谷当番幹事)は、平成13年2月17日北里大にて開催予定。特別講演(1)「21世紀における産業医学」(高田勲)(2)「個人情報保護と産業医活動」(丸山英二)シンポジウム「産業保健活動と産業医活動」(中村健一、堀江正知、菊池昭)。
6. 第213回例会・平成13年度総会(稲垣当番幹事)は、平成13年5月19日日医大にて開催予定。
7. 第214回一泊例会・第45回見学会(相澤好治企画運営委員長、新津谷・堀江当番幹事)は、平成13年8月3・4日北里大にて開催予定。見学候補地を選定中。
8. 産業看護研究会(代表世話人 鎌田幹事)は、平成13年1月27日東京ウィメンズプラザにて開催。テーマ「ヘルスプロモーションの理念と健康教育の考え方」(吉田享)。
9. 関東地方会ニュースは、次年度から1月と6月に発行予定。
10. 第1回認定産業医講習会が、平成12年10月15日中央会館ホールにて開催された。第2回研修会は4月15日開催予定。
11. 第11回産業医・産業看護全国協議会は、平成13年10月19・20日に京王プラザホテルにて開催予定(内容は学会開催予定参照)。
12. 学会本部より、70周年記念号の販売について依頼があった。
13. 平成14年度例会開催候補地は、第217回例会・総会は東大(予定)、第218回一泊例会・第46回見学会は栃木県、第219回例会は日航とした。
14. 産業医研修会シール代の徴収方法について審議した。

15. 第34回中小企業衛生問題研究会全国集会(世話人酒井一博)は、平成13年1月27日、かながわ県民センターにて開催。
16. 産業衛生技術部会の機能と役割および準備会について説明があった。
17. 大前和幸「産業衛生学雑誌」編集委員長より、(1)希望により例会・委員会・研究会の特別講演・シンポジウムなどをsupplementとして掲載する。(2)英文誌は学会ホームページから全文を閲覧できる。(3)メールの活用で投稿論文査読開始時間短縮が実現した。(4)許容濃度提案理由書集追加版を販売する。(5)例年8月第3土・日曜日に専門医試験が行われる。
18. 個人情報保護法大綱が法制化され、次期通常国会を通過する予定。学会会員から内閣宛に(ホームページ利用)意見を述べてほしい。
19. 名誉会員として小泉明・前田裕両会員を推薦する。

ている。また、同時期に「医学情報処理講義・演習」という題目で、統計学演習を行なっている。さらに、学生1人1テーマの地域保健実習の成果を、6年生の保健医療論講義の中で発表してもらっている。以上、教室の研究内容と教育プログラムを紹介した。



研究室紹介

群馬大学医学部公衆衛生学教室

鈴木庄亮, 川田智之

<研究活動>

重金属中毒、金属の生態循環、質問紙健康調査法と精神保健、生物生態学のフィールド調査への応用、インドネシアと米国の海外学術調査と共同研究、騒音とその睡眠影響の脳波による検出、成人病の疫学によるライフスタイルのリスク要因の検討などの研究を中心に、7~8人の大学院生が加わって行ってきた。

現在の研究テーマとしては、

- 1) 発展途上国であるインドネシアにおける環境問題への知識、認識、対処の現状と方策: Human Dimension of Global Environmental Change Program (HDP)
- 2) 国内外におけるカドミウム、NO₂、浮遊粒子状物質などの地域分布と曝露量および健康影響
- 3) 道路交通騒音の睡眠への影響 —睡眠ポリグラフと質問紙法による測定
- 4) 群馬県下の1万人コホート調査による、生活習慣病のリスク要因の検討、特に社会心理的要因の評価

<教育活動>

3年生後期に、公衆衛生学総論および各論の講義をし

産業保健実践活動報告 (第2回)

日立製作所における挑戦

林 剛司 (日立健管セ)



専属産業医となり14年が経過しました。この間に日立健康管理センターでは4.5万人の日立製作所グループ従業員を対象に一般的な産業医活動の充実と共に、1日80名の人間ドック(会瀬総合健診)、メンタルヘルスサービスの充

実等活動の範囲を拡大し、所属産業医も4名から16名になりました。そして、それらの活動は、当センター長の指導により独立採算制の下、ガン対策やメンタルヘルス不全者の対応について事業所や従業員の方々から支持を得ることができるようになったと思われます。そして、この4.5万人の従業員の方々の健康情報が集積され、電子情報化できる体制の整備もできました。

今後、個人情報保護に関する対応は十分に考慮する必要がありますが、これらの入社時から特例退職者の70才までの健康情報データベースを基に、産業保健活動のEBMとなる基礎を構築することが可能になったのではないかと考えています。

今後の課題としては、このデータベースを日立地区に留まらず全社に展開し、30万人規模のデータベースを構築することです。このデータベースの活用により

従業員の方々の健康の保持増進ばかりでなく、ライフサイエンスに貢献できるのではないかと考えています。

また、心身の健康保持増進については、産業看護職を中心とした産業保健スタッフの人的側面の要因が極めて大きいと思われます。科学的根拠と对人的アプローチを的確に融合することが必要です。そのためには、産業保健部門における事業化など、従来の産業医学の枠に囚われない発想が必要ではないかと考えています。

関東地方会小史(2)

櫻井治彦(中災防)

関東地方会小史(1)は関東地方会ニュース第2号に掲載されています。

表1 昭和54年以降の関東地方会例会

| 回数 | 当番幹事 | 開催年月日 | 開催場所 | 出席者数 |
|------|----------------|-------------|-----------------|------|
| 125 | 外山 敏夫 | 54.5.26 | 慶應大学医学部 | 72 |
| 125* | 竹本 和夫 | 54.7.21.22 | 鎌北湖山水荘(埼玉県) | 55 |
| 127 | 橋田 学 | 54.11.24 | 三井銀行 | 97 |
| 128 | 大本美彌子 | 55.3.15 | 持田製薬ルークホール | 79 |
| 129 | 戸田 弘一 | 55.6.7 | 神奈川県予防医学協会 | 97 |
| 130* | 和田 攻 太田 武史 | 55.9.9.10 | 東京三洋赤城保養所 | 60 |
| 131 | 山本 幹夫 | 55.11.22 | 帝京大学医学部 | 67 |
| 132 | 小池 重夫 | 56.2.21 | 昭和大学医学部 | 100 |
| 133 | 山本 武彦 | 56.5.16 | 順天堂大学有山記念館講堂 | 123 |
| 134* | 西原 哲三 | 56.7.15.16 | 神奈川県消防団員保養所 | 78 |
| 135 | 乗木 秀夫 | 56.11.7 | 日本医科大学 | 52 |
| 136 | 山賀 岑朗 | 57.2.27 | 神奈川県予防医学協会 | |
| 137 | 竹村 望 | 57.5.22 | 日本プレスセンターホール | 79 |
| 138* | 石川 清文 平野 英男 | 57.10.14.15 | 千葉県一宮町国民宿舎 | 53 |
| 139 | 高田 勲 | 57.11.20 | 日本大学医学部同窓会記念講堂 | 170 |
| 140 | 浦本 馨一 | 58.2.5 | 日本教育会館一ツ橋ホール | |
| 141 | 宮沢寿一郎 | 58.5.14 | 東京医科大学 | 61 |
| 142* | 小川 清 | 58.7.23.24 | 土浦京成ホテル | 130 |
| 143 | 木村 菊二 | 58.11.12 | 茗溪会館 | 98 |
| 144 | 浦島 幸昌 | 59.2.10 | 後楽園会館 | 90 |
| 145 | 小泉 明 | 59.5.12 | 東京大学医学部 | 94 |
| 145* | 森沢 康 岡部 三郎 | 59.9.28.29 | 鬼怒川観光ホテル | 118 |
| 147 | 南 正康 | 59.12.8 | 産業医学総合研究所 | 54 |
| 148 | 柴田 拓一 | 60.2.2 | 健保会館 | |
| 149 | 櫻井 治彦 | 60.5.11 | 後楽園会館 | 72 |
| 150* | 小泉 明 | 60.7.5.6 | 清泉寮(長野県) | 100 |
| 151 | 大本美彌子 | 60.12.7 | 持田製薬ルークホール | 137 |
| 152 | 皆川 洋二 | 61.2.22 | 日本教育会館 | |
| 153 | 山本 武彦 | 61.6.14 | 順天堂大学有山記念館講堂 | 116 |
| 154* | 鈴木 庄亮 | 61.9.20.21 | ホテル国際きのこ会館(桐生市) | 70 |
| 155 | 清水 英佑 | 61.11.25 | 東京慈恵会医科大学 | 61 |
| 156 | 埋忠 洋一 | 62.2.7 | 興和株式会社(東京支店) | |
| 157 | 相澤 好治 | 62.5.23 | 北里学園 | 118 |
| 158* | 伊藤 岩美 吉田 守孝 | 62.7.24.25 | 別所沼会館(浦和市) | 151 |

| | | | | |
|------|-------------------------|------------|--------------------------|-----|
| 159 | 横山 英世 | 62.11.7 | 日本大会館 | 111 |
| 160 | 矢野 栄二 | 63.2.20 | 持田製薬ルークホール | 93 |
| 161 | 南 正康 | 63.5.21 | 日本医科大学 | 94 |
| 162* | 平野 英男 | 63.7.29.30 | ちば共済会館 | 148 |
| 163 | 宮下 和久 | 63.10.22 | 後楽園会館 | 87 |
| 164 | 中明 賢二 | 1.2.4 | 持田製薬ルークホール | |
| 165 | 香川 順 | 1.5.27 | 東京女子医科大学 | 135 |
| 166* | 内山 敬司 佐藤 欣一 | 1.8.25.26 | 富士通株沼津工場 | 106 |
| 167 | 木下 修三 | 1.12.9 | 東京医科大学 | 145 |
| 168 | 鶴田 寛 | 2.2.17 | 産業医学総合研究所 | |
| 169 | 大前 和幸 | 2.5.26 | 慶應大学医学部 | 131 |
| 170* | 山口 誠哉 | 2.9.7.8 | 日立製作所、サンピア日立 | 141 |
| 171 | 林 和夫 | 2.12.1 | 東京慈恵会医科大学 | 102 |
| 172 | 千葉 百子 | 3.2.9 | 順天堂大学有山記念館講堂 | |
| 173 | 横山 和仁 | 3.4.27 | 東京大学山上会館 | 141 |
| 174* | 宇佐見隆廣 | 3.9.20.21 | ホテルフェアシティ(宇都宮市) | 167 |
| 175 | 角田 透 | 3.11.16 | 杏林大学医学部 | 206 |
| 176 | 山村 恵彦 | 4.2.25 | かながわサイエンスパーク | |
| 177 | 大本美彌子 | 4.5.23 | 東邦大学医学部 | 222 |
| 178* | 岸田 孝弥 神山 照秋 鈴木 庄亮 | 4.8.28.29 | 高崎ビューホテル、 高崎中央公民館ホール | 161 |
| 179 | 埋忠 洋一 | 4.11.7 | 航空会館大ホール | 185 |
| 180 | 横山 英世 | 5.2.27 | 日本大学医学部 | 229 |
| 181 | 大前 和幸 | 5.5.29 | 慶應大学医学部 | 242 |
| 182* | 石井 照雄 沖野 哲郎 | 5.8.27.28 | 飯能プリンスホテル | 192 |
| 183 | 鈴木 正夫 | 5.12.18 | 健保会館地下ホール | 251 |
| 184 | 内山 寛子 | 6.2.26 | J R 東京総合病院講堂 | 176 |
| 185 | 南 正康 | 6.5.14 | 日本医科大学 | 123 |
| 186* | 城戸 照彦 野上 寛一 | 6.7.29.30 | 海外職業訓練協力センター | 227 |
| 187 | 工藤 光弘 | 6.10.29 | 建築会館ホール | 215 |
| 188 | 前原 直樹 | 7.2.18 | 山之内製薬本社2階ホール | 129 |
| 189 | 石崎 達郎 | 7.5.20 | エーザイホール | 170 |
| 190* | 金子 顕雄 | 7.7.28.29 | 横浜市金沢産業振興センター | 288 |
| 191 | 有藤平八郎 | 7.11.25 | 後楽園会館 | 281 |
| 192 | 中館 敏夫 | 8.2.24 | 東京女子医科大学 | 198 |
| 193 | 正木 基文 | 8.5.18 | 昭和大学上條講堂 | 269 |
| 194* | 村上 正孝 | 8.8.23.24 | つくばナショナル住宅産業 東部HRセンター | 160 |
| 195 | 大本美彌子 | 8.11.30 | 品川区立総合区民会館 | 341 |
| 196 | 横山 和仁 | 9.2.22 | 東京大学山上会館 | 291 |
| 197 | 角田 透 | 9.5.10 | 杏林大学医学部 | 523 |
| 198* | 宇佐見隆廣 | 9.9.5.6 | 宇都宮ホテルフェアシティ | 672 |
| 199 | 吉田 貴彦 | 9.11.29 | 東海大学校友会館 | 146 |
| 200 | 中村 啓男 | 10.2.21 | 川崎市宮前市民館 | 363 |
| 201 | 千葉 百子 | 10.5.16 | 順天堂大学有山記念講堂 | 389 |
| 202* | 安達 修一 | 10.8.28.29 | 浦和東武ホテル、 埼玉県民健康センター | 358 |
| 203 | 横山 英世 | 10.11.14 | 日本大学医学部同窓会記念講堂 | 254 |
| 204 | 鈴木 正夫 | 11.2.20 | グランパークプラザ棟 | 244 |
| 205 | 鈴木 勇司 | 11.5.29 | 東京慈恵会医科大学 | 323 |
| 206* | 川田 智之 | 11.8.6.7 | 三洋電機保健センター | 122 |
| 207 | 内山 寛子 | 11.12.4 | J R 東京総合病院講堂 | 245 |

*一泊例会

(本記事は、「日本の産業保健」一あゆみと展望一、法研より転載した)

平成13年度 厚生労働省の重点施策から



市川正明 (中災防)

少子・高齢化、経済のグローバル化やIT化等技術革新の進展に伴う産業構造の変化、就業意識の変化等経済社会の構造変化が進展している中

で、いよいよ平成13年1月、中央省庁の再編成により厚生省と労働省が統合され、厚生労働省としてスタートした。

このほど、厚生労働省として21世紀最初の重点施策が公表された。ここでは、その中から産業保健分野における働く人すべてが安心して働ける環境づくりに関する施策に焦点をあて、その抜粋とキーワード(KW)を紹介する。

1) 全文化の創造に向けた取り組み

KW；労働安全衛生マネジメントシステム

安全文化

自主的安全衛生管理活動

リスクアセスメント

小規模事業場等団体安全衛生活動援助事業

2) 労働者の健康保持増進

KW；産業保健活動

都道府県産業保健推進センター

3) 産業保健と地域保健の連携の強化

KW；職域及び地域における各種健診制度の連携

4) 職業性疾患の予防対策等の推進

KW；粉じん障害防止対策

5) 廃棄物処理にかかるダイオキシン類の研究体制整備及び安全衛生活動への支援

KW；ダイオキシン類の測定・分析体制

6) 化学物質による健康障害予防対策等の推進

KW；シックハウス対策

産業衛生技術部会の機能と役割



中明賢二 (麻布大)

日本産業衛生学会に技術系会員の部会を作る必要性を指摘したのは第71回盛岡(1998.4)での大会シンポジウムであった。以来、賛司を得られた会員を中心に準備会、世話人会を組織し、機会を捉えて拡大世話人会を重ね、2回の準備総会を開催してきた。本年、第74回大会(2001.4.)総会で会員の了解を得て正式に部会として発足できればと考えている。

産業保健・衛生活動は医学領域と理工学・心理学領域の連携なしには実効性を持たないのは自明の理で、本部会の目標は領域間の連携強化と課題解決型部会の推進にある。

産業の場には様々な課題・要求があり、それに答えられる道具、具体的方法、人材、等々技術系会員の取り組むべき課題ならびに領域は極めて広範にわたる。

○部会の基本的な活動

- 1) 分野ごとに基本事項と現状分析
- 2) 連載講座の開設とそれらをベースとしたテキストの作成
- 3) 産業衛生技術カリキュラムの作成と講座の開講
- 4) 講座修了者に対する学会としての資格認定
- 5) 資格の有効利用と行政へのアプローチ

○拡大世話人会(2000.11.10.開催、水戸)で示された当面の方向

- 1) total managementの推進
- 2) TLVの活用と関連する測定法の開発
- 3) 国際的に通用する資格
- 4) 日本型 industrial hygienistの養成
- 5) その他

○部会運営の方向性

- 1) 大会総会時に行う最先端の話題を中心としたシンポジウム
- 2) 秋に基礎的な話題によるシンポジウムの開催
- 3) カリキュラム作成後の講習会の実施
- 4) 講習会資料ならびに分野ごとに纏める連載講座をベースにした教材の作成

これらの課題を実行するには会員の積極的な参加が不可欠であり、関東地方会会員の協力なくしては部会運営が不可能でもある。今後の参画を願う。

(準備会世話人代表)

関東地区学会・研究会開催予定

第8回日本産業精神保健学会

日時：平成13年6月22日(金)、23日(土)
会場：杏林大学三鷹キャンパス(東京都三鷹市)
会長：古見耕一(杏林大学名誉教授)

第8回ヘルスカウンセリング会学術大会

日時：平成13年9月22日(土)、23日(日)
会場：すみだリバーサイドホール(墨田区)
会長：宗像恒次(筑波大学・体育科学系健康学教授)

第11回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会



埋忠洋一(企画運営委員長)
第11回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会は、企画運営委員会にて下記の要領で実施することになりましたのでお知らせいたします。魅力的なテーマと内容で、

全員が参加できるような企画を考えています。多くの方々のご参加をお願い申し上げます。

ぜひ、手帳に開催日時を記入してください。

記

開催場所：京王プラザホテル

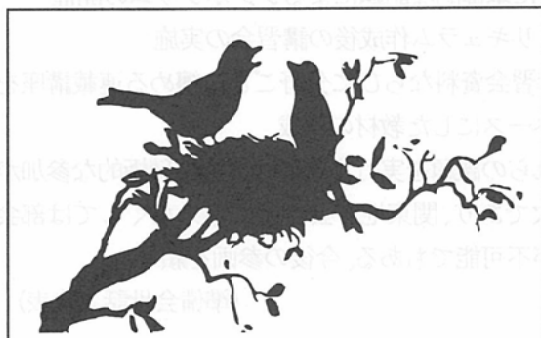
開催日時：平成13年10月19日 18:00~20:30

10月20日 9:00~17:00

(懇親会 17:15~)

メインテーマ：「健康管理のモラル、論理、技法」

内容：19日のワークショップでは、多くの人に関心の深いテーマに参加者全員で取り組んでいただきます。20日には、特別講演、ランチョンセミナー、全体集会、シンポジウム、パネルディスカッションなどで、徹底的に考え、議論していただきます。



おめでとうございます

労働大臣功労賞

和田 攻先生(埼玉医科大学)

労働大臣功績賞

鈴木庄亮先生(群馬大学医学部)

中央労働災害防止協会顕功賞

荘司榮徳先生(千葉産業保健推進センター)

会員の先生方の慶事を関東地方会ニュース編集委員会事務局までお知らせ下さい。

編集委員名簿

◎伊藤岩美(埼玉健康づくり)

安達修一(埼玉医大)、稲垣弘文(日本医大)、
宇佐見隆廣(獨協医大)、内山寛子(JR東日本)、
大久保靖司(千葉大医)、沖野哲郎(埼玉産保推セ)、
川田智之(群大医)、河野啓子(東海大健康科学)
小峰慎吾(NTT千葉)、

◎鈴木勇司(慈恵医大)、原美佳子(日本たばこ)、
廣尚典(日本鋼管)、村上正孝(茨城産保推セ)、
渡辺哲(東海大医)

◎編集委員長 ○事務局

編集後記

関東地方会ニュース「21世紀」最初の号をお届けします。新しい世紀は子供の頃に想像していたSFのような世界ではありませんでしたが、せつかくの機会ですから、今までを振り返り、新たな一歩を踏み出すのも良いのではないのでしょうか。新世紀にあたって、荘司先生からお言葉をいただきましたが、明るい時代になって欲しいと願わずにはられません。さて、本ニュースも第3号を迎え、一定の型が出来上がってきた感があります。本号からは、2つ目のシリーズ企画、「研究室紹介」もスタートしました。「産業保健実践活動報告」とともに、順次会員の方々に執筆をお願いして参ります。よろしく願いいたします。勿論投稿も大歓迎です。櫻井先生による「関東地方会小史」は今回で終了です。次号からは新しい企画を準備しています。会員皆様の積極的なご参加とフィードバックが本紙の血となり肉となりエネルギーとなります。多くのご意見や「原稿」をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。次号は6月の予定です。ご期待下さい。

(稲垣)